

## 令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (3) (5)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 藏澄 美仁

統括責任者 役職名 管理栄養学科准教授 氏名 門屋 亨介

課題名 梶山×星が丘テラス サイエンスカフェ

|      | 役 割  | 氏 名            | 所属・役職名               | 役割分担                  |
|------|------|----------------|----------------------|-----------------------|
|      | 統括責任 | 門屋 亨介          | 生活科学部 准教授            | 統括                    |
| 事業組織 |      | 三田 有紀子<br>伊藤 愛 | 生活科学部 講師<br>生活科学部 助手 | 会場調整、講師依頼、広報<br>広報、会計 |
|      |      |                |                      |                       |

## 1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業は、本学科の教員と一般の人々が、カフェなどでお茶などを飲みながら、科学について語り合う場をつくるサイエンスカフェを運営、企画、実施するものである。内容は「食」に関する分野として、最新の情報を踏まえて実施する。また、対象として、一般の方はもちろん、高校生、在学生、卒業生にも広く発信し、卒業生に対してのリカレント教育の一環としても実施する。

学科では、オープンキャンパスなどで高校生への情報提供は SNS などを使用して充実化を図ってきた。しかし、本学は女子教育に注視しており、その情報提供が限定的だと言える。また、近隣に「大学で何をやっているか」が分かりにくい状況にあるとも考えられ、本事業は本学の「見える化」にもつながると期待される。この事業に実施により、幅広い世代に対して「食」に関わる食品学や栄養学、それに繋がる健康に関しての情報発信にもつながるだけでなく、様々な意見が集約できる一つのコミュニティづくりにもつながると考えられる。

## 2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

サイエンスカフェとは、大学等の科学の専門家と一般の人々が、カフェなどでお茶などを飲みながら、科学について語り合う場を指す。近年、全国で広く行われているが、本学科のような栄養学や食品学を専門に学ぶ大学での実施実績はあまりない。つまり、本事業の特色は、「食」という生活に密着した話題に対して科学的な側面から情報提供できるところにある。事業は以下のとおり実施した。

日 時：第 1 回 2024 年 11 月 30 日（土）16:00、第 2 回 2025 年 2 月 22 日（土）14:00

講 師：管理栄養学科教員（第 1 回 箕越靖彦教授、第 2 回 門屋亨介准教授）

対 象：一般（高校生以上）

場 所：星が丘テラス内の 3 階イベントスペース

募集方法：広報活動として、大学広報に依頼し、大学 HP への掲載、掲示板へポスターを掲示した。  
また、卒業生等には学科 LINE、Instagram を用いた。

### 3. 事業の成果（600 字～800 字程度で記述）

星ヶ丘テラスとの相談により、2024 年 11 月 30 日、及び、2025 年 2 月 22 日にサイエンスカフェを開催した。第一回は本学教員箕越靖彦教授が「肥満はなぜ起こる？-肥満を防ぐ脳と体-」というタイトルで講演を行った（申込者 8 名、参加者 10 名）。第二回目は本学教員門屋亨介准教授が「微生物が作り出す環境に優しい素材 -生分解性バイオプラスチック-」というタイトルで講演を行った（申込者 3 名、参加者 7 名）。両教員とも自身の研究室で行っている研究を一般市民にもわかりやすく約 60 分間講演を行った。

箕越教授の研究テーマは肥満であり、現代日本人の約 3 人に 1 人が肥満の可能性があり現代病として非常に注目を集めている。肥満は体に多くの悪影響を与え、糖尿病や脂質異常症・高血圧・心血管疾患などの生活習慣病をはじめ多くの疾患の原因となるため、肥満の予防対策はとても重要である。本講義では肥満になるメカニズムをわかりやすく解説した。

門屋准教授の研究テーマは生分解性バイオプラスチックであり、環境問題や地球温暖化などでのプラスチック問題は非常に注目を集めている。石油プラスチックの代わりとなる可能性を秘めた生分解性バイオプラスチックについてわかりやすく解説した。

大学で行われる研究成果を広く周りに告知する場は限られており、一般市民にとってはわかりにくい部分も多い。サイエンスカフェのような場で各教員の研究成果を公表することは、市民交流を活発にし、開かれた大学を宣伝する意味でも非常に重要である。

### 4. キーワード（本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載）

|            |        |        |   |
|------------|--------|--------|---|
| ① サイエンスカフェ | ② 大学研究 | ③ 市民交流 | ④ |
| ⑤          | ⑥      | ⑦      | ⑧ |

### 5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

サイエンスカフェは本年度 2 回行ったが、内容的には非常に充実していた。したがって、もう少し開催頻度を上げることで、本学科、及び、本学の宣伝効果はもっと上がると予想される。

今回、初めてサイエンスカフェを行ったが、素人運営のため、告知を含めた準備不足の箇所が多く見受けられた。次年度に行う場合は、本年度の反省を活かし円滑な運営を目指したい。